

鷹ノ巣谷遡行報告書

(山域) 奥多摩(鷹ノ巣谷⇒金左小屋窪)

(コース) 東日原～鷹ノ巣谷～金左小屋窪～鷹ノ巣山～稲村岩尾根～東日原

(日時) 5月29日(日曜日) ※前夜泊

(天候) 晴のち曇

(参加者) CL: 渡邊(三)、SL: 石井、会計: 大塚、記録: 田辺、井上(里)

(山行タイム) 東日原(駐車場)06:00～大滝09:20～鷹ノ巣山14:35～東日原(駐車場)16:45

前週の沢講習に引き続き私は沢2回目となる。今回は奥多摩の鷹ノ巣谷の遡行にご一緒させていただくことになった。メンバーは5名、大塚さんの車で目的地へ向かう。前夜泊のため、まずは井上さんが私を20:30にピックアップ、大塚さん宅で車交換し、石井さんをピックアップし、CL 渡邊さん宅を出発したのは22時前。渋滞もなく高速はとてもスムーズ、青梅ICを降りた後、途中コンビニで今夜と明日必要になる諸々を買い込み、市川から2時間ほどで今夜の宿泊地である鳩ノ巣駅駐車場に到着。既に何か車中泊をしている車がある。私たちもそそくさとテントを広げ、ささやかな小宴会を1時間ほど催し就寝。

翌日5時前に起床、準備を始める。最近日は長く起きた時には既にだいぶ明るくなっている。また、麓ではあるが少々冷え込み、長袖1枚だと肌寒く感じ合羽を被る。サクッと撤収、鳩ノ巣駅を出発したのは5時20分ごろだった。車で日原川に沿った道を進む。途中1台しか通れない箇所が多いが対向車はなく、東日原バス停付近の駐車場(有料500円)に到着。天気はとても良く青空が見え、そよ風が心地よい。支度を済まし出発。途中駐在所に寄り登山届を提出。駐在所の方は朝早くから、しかもなぜかパジャマ姿で外をうろうろしていた。先を進み民家の間から日原川への道を下り、鷹ノ巣谷出合で沢靴に履き替え、沢歩きスタート。

しばらくはあまり傾斜も強くないが、小さな滝がいくつも連続していて沢歩き気分を楽しめる。溪相は大滝を超えた少し先まではやや暗い。石は黒光りしており、苔は少なめだが攀じる小滝にはぬめりはある。ただ、所々気を付けた方がいい個所ではCLがマメにロープを出してくれるので、安心して登ることができありがたい。私はケツが重いせいかCLがささっと上がれる個所でも足場が心もとないとちょっと手間取ってしまい、痩せる必要性をひしひしと感じる(山行の度感じる)。

大滝を過ぎて金左小屋窪のところまで行くと、無数の流木が沢を覆ってしまっている箇所があり、歩きづらい。巻いたりくぐったりしながら進み、沢が枯れてくることから傾斜がきつくなる。1300mを超えたあたりから右側の尾根へ取り付き、1355mピークの上50mところまでの急傾斜を登る。私は沢靴を脱ぎ、アプローチ靴に履き替えた。沢靴を脱いだ時、解放感がたまらなく気持ちよく感じる。このとき一息ついてほっとしたためか、沢の途中でスーベニアとして拾った鹿の角を置き忘れてしまった。なくても困らないので気が付いてもあえて戻らなかったが、一旦持って帰ろうとして結局置き忘れてしまうとは自分のことながらなかなか愚かしい。

ここから吸血しない羽虫が多くなる。羽虫を体に纏いつつ、しばらく肅々と尾根沿いを歩き、鷹ノ巣山と水根山の間にある舗装路のように固く踏みしめられた1651mの尾根へ到着した。暑い日差し

を感じるほど天気の良いため、開放感のある尾根から鷹ノ巣山や奥多摩の山々が眺望できる。ヤマツツジ、ミツバツツジなどがあちこちで咲いて折り目を楽しませる。トレイルランナーやハイカーに挨拶しつつ一服し、鷹ノ巣山から稲村岩尾根を下る。

稼いだ標高差 1150mを降りる。メジャーな山域のため道は踏み固められておりしっかりしていて問題ないが、延々下りはなかなか膝に来る。だんだん曇ってきたが雨が降るほどではなく逆に涼しくてありがたい。そのうち下りに飽きて機械的、作業的な感覚に陥る頃に、日原川を渡る立派な橋が見えてくる。その先にある民家の間を通り東日原にたどり着くことができた。

帰路途中、奥多摩駅付近のもえぎの湯に立ち寄る。到着時は混んでおり、入場を 5 分程待たされた。が、私たちが入る頃から人が減っていき、ゆったりできるようになった。少し遅めに到着したほうが良いのかもしれない。途中青梅周辺でラーメンを食べることになり、来来亭で食事した後、再び青梅 IC から高速に乗り渋滞なく帰葉した。

■ 出発前、中央奥に稲村岩尾根を望む



■ ロープを出してくれるCL



■ 大滝前で記念撮影



■ つつじをバックに 1651m尾根付近



以上